

平成 29 年度 東三河自然再生推進業務 概要

(東三河総局委託事業)

1. 業務の目的

自然観察、SNSでの情報発信、エコツアーガイド実践等を通して東三河地域で環境活動する次世代の担い手育成と豊かな自然の魅力発信の実践を学んだ。平成 27 年度からの 3 年度継続事業で地域の豊かな自然環境を保全し、情報発信する「環境地域リーダー」の育成を目指した。

2. 事業の概要

平成 29 年度事業では、水辺環境や渥美半島の自然公園について学び、それらの魅力発信を実践する内容で 9 月から 11 月の 3 ヶ月間にわたって以下の事業を展開した。

- ①里川フィールドリーダー養成講座（9 月 17 日、18 日）
- ②自然公園魅力発信コアリーダー養成講座（10 月 14 日、15 日：1 泊 2 日）
- ③自然公園フィールドエコツアー（11 月 19 日日帰りツアー）

3. 実施概要

- ①里川フィールドリーダー養成講座（9 月 17 日、18 日）

講座には、21 名の応募者があり、19 名が受講した。テーマは、水辺環境の自然と情報発信だった。水辺環境では、朝倉川、豊川（とよがわ）、豊川河口の干潟等をフィールドに生き物観察と SNS 利用による情報発信を実践した。

生き物観察では、自然観察ノートに代わる「自然フィールドカード」を提案、実際に作成を試みた。



自然フィールドカードの記載内容を検討する受講生（里川フィールドリーダー養成講座）



豊川（とよがわ）河口で干潟の生き物観察をする（里川フィールドリーダー養成講座）



朝倉川で生き物を採取する（里川フィールドリーダー養成講座）

自然フィールドカード	
題名	天女のように舞う
種名	アサギマダラ
年月日	平成29年10月3日
場所	新城市内
撮影データ	ニコンB700
フィールド	新城フラワーパーク⇒伊良湖岬
メモ	海を渡って2,000キロも長距離移動するといわれる。渡りは10月ごろ。伊良湖岬でも多く見られる。羽根を見る角度や光の具合によって白っぽい部分が浅葱（アサギ）色に見える。食草は、フジバカマが有名だが、アザミ、ウワブキ、セイダカアワダチソウなどもある。撮影で近づいてもすぐに逃げない。のんびりなチョウという感じ。



自然フィールドカード	
題名	髭がかわいいカジカみたいな魚
種名	カマツカ（コイ目コイ科）
年月日	平成29年9月18日
場所	朝倉川
撮影データ	ニコンcoolpix B700 FB 1/2000 ASA800
フィールド	里川
メモ	釣り好きな人は「カワギス」と呼ぶらしい。外形がキスに似ているからだという。カジカの仲間かと思ったが、コイみたいに口元にヒゲがある。大きさは全長20センチくらいまで。きれいな川の砂地や小石の川底に生息する。同じ「カマツカ」では、藤の柄に使われる樹木があった。なぜ、同じ名前なのか調べてみるといいかも。



試行錯誤して完成した二種類の自然フィールドカード（里川フィールドリーダー養成講座）

②自然公園魅力発信コアリーダー養成講座（10月14日、15日：1泊2日）

東三河の豊かな自然をガイドできる人材のレベルアップを目指した講座だった。渥美半島の自然公園の魅力をガイドするエコツアーを設計し、実践する内容で平成27年度の「“ほの国自然ソムリエ”学校」から参加してきた修了生らを主な対象に11名が受講した。

ガイド実践に向け、自然フィールドカードを応用した「フィールドエコツアーカード」を作成した。



恋路ヶ浜で海浜性植物を調べる受講生（自然公園魅力発信コアリーダー養成講座）



椿の里山で椿の実を拾う（自然公園魅力発信コアリーダー養成講座）



エコツアー設計について講師の話を聞く（自然公園魅力発信コアリーダー養成講座）

③自然公園フィールドエコツアー（11月19日日帰りツアー）

渥美半島の「椿の里山」「恋路ヶ浜」、そして平成30年4月に正式開園する「砂丘とオアシス（湧水）の再生」をテーマにした国内初の海浜性植物園「いらごさららパーク（伊良湖休暇村公園）」の3箇所を巡る日帰りツアーとして実施した。

本エコツアーは、10月の自然公園魅力発信コアリーダー養成講座修了生が設計した内容。一般募集で集まった親子など34名が参加した。



エコツアー参加者が外来種駆除実践したエコツアー（自然公園フィールドエコツアー）



フィールドエコツアーカードを実際に使ってガイドする修了生（自然公園フィールドエコツアー）